



Japan Display Inc.

2021年度 第3四半期
決算説明資料

2022年2月10日

株式会社 ジャパンディスプレイ



PersonalTech For A Better World



Japan Display Inc.

2021年度 第3四半期 サマリー

- 売上高は半導体不足の影響で予想を下回るも、部材コスト増の売価への転嫁、計画以上のコスト削減、KOE株式売却益等により、損益は予想比大幅改善
- 当社フロントプレーン及びバックプレーン技術の更なる進化により、次世代の高付加価値製品と要素技術の開発は順調に進展
- 世界一の透過率を有する透明ディスプレイRælclear™を上市
- Tianma Microelectronics社と和解（1/21開示）
- 資本金及び資本準備金の減少並びに剰余金の処分について、株主総会への付議を決議（1/12開示）
- 東証の本年4月からの新市場区分「プライム市場」への移行が確定（東証1/11発表）

需要変動、部材不足、輸送費・部材費・動力費の高騰により、サプライチェーンの混乱が継続

モバイル/欧米

- OLED採用の拡大により、**スマホ用液晶の需要は漸減継続**

現在



今後



モバイル/中国・他

- 部材不足の影響によるセット生産の変動に加え、**顧客側の在庫調整による影響も発生**



車載

- 部材不足の影響で市場成長は抑えられているが、**当社は高付加価値製品で堅調を維持し、今後も引き続き成長**



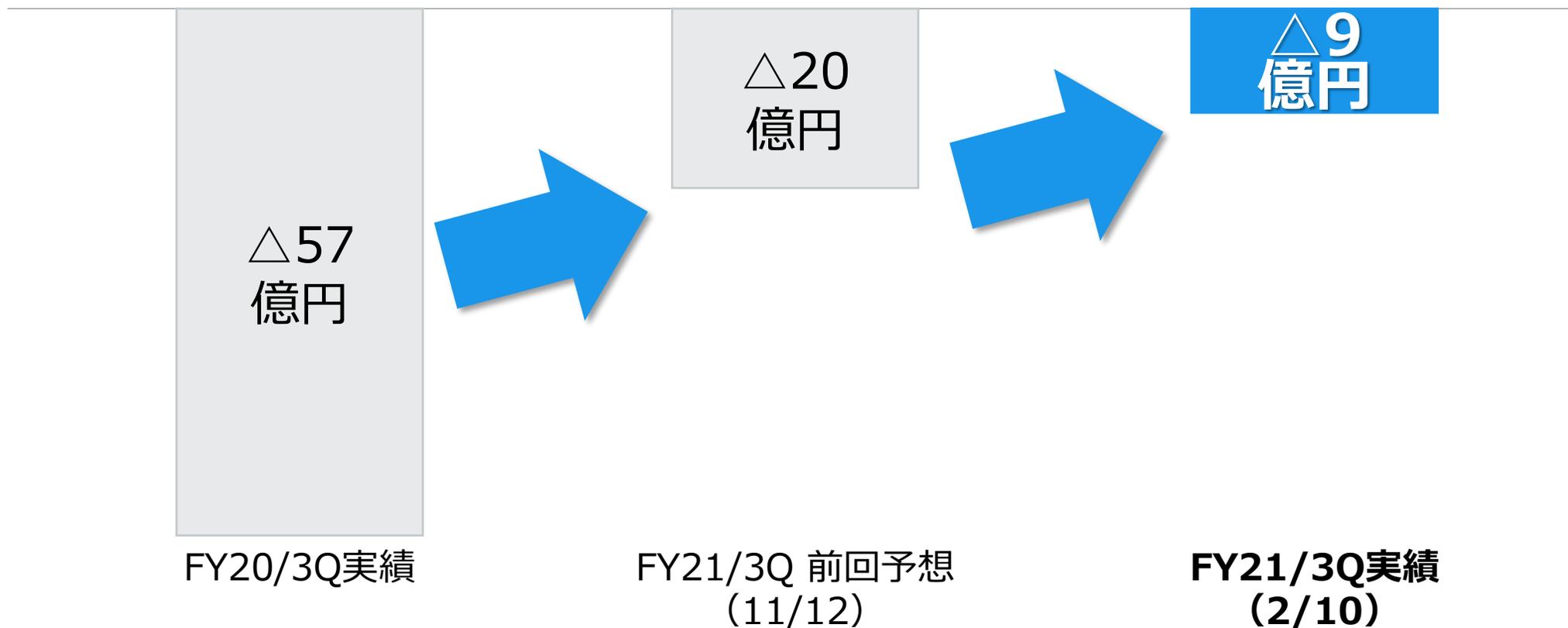
ノンモバイル

- 健康管理や生活様式の変化に伴う需要が拡大。部材不足の影響はあるが、**Smart WatchやVR用の需要は好調に成長**



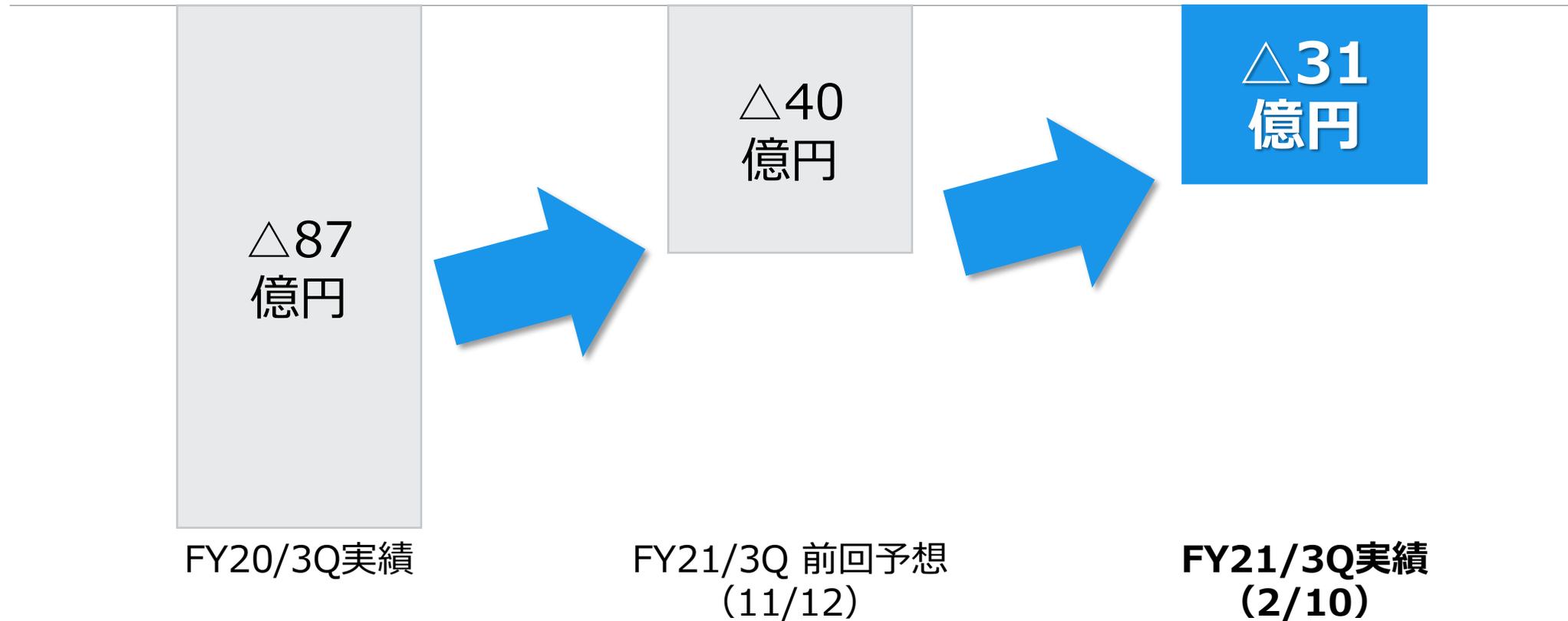
3Q EBITDAは前回予想から改善し $\Delta 9$ 億円 の実績

3Q EBITDA $+11$ 億円 改善 (前回予想比)



半導体逼迫影響の抑制、継続したコスト削減、部材コストの売価への転嫁等により、
3Q 営業損益は前回予想から改善し $\Delta 31$ 億円 の実績

3Q 営業損益 **+9** 億円 改善 (前回予想比)



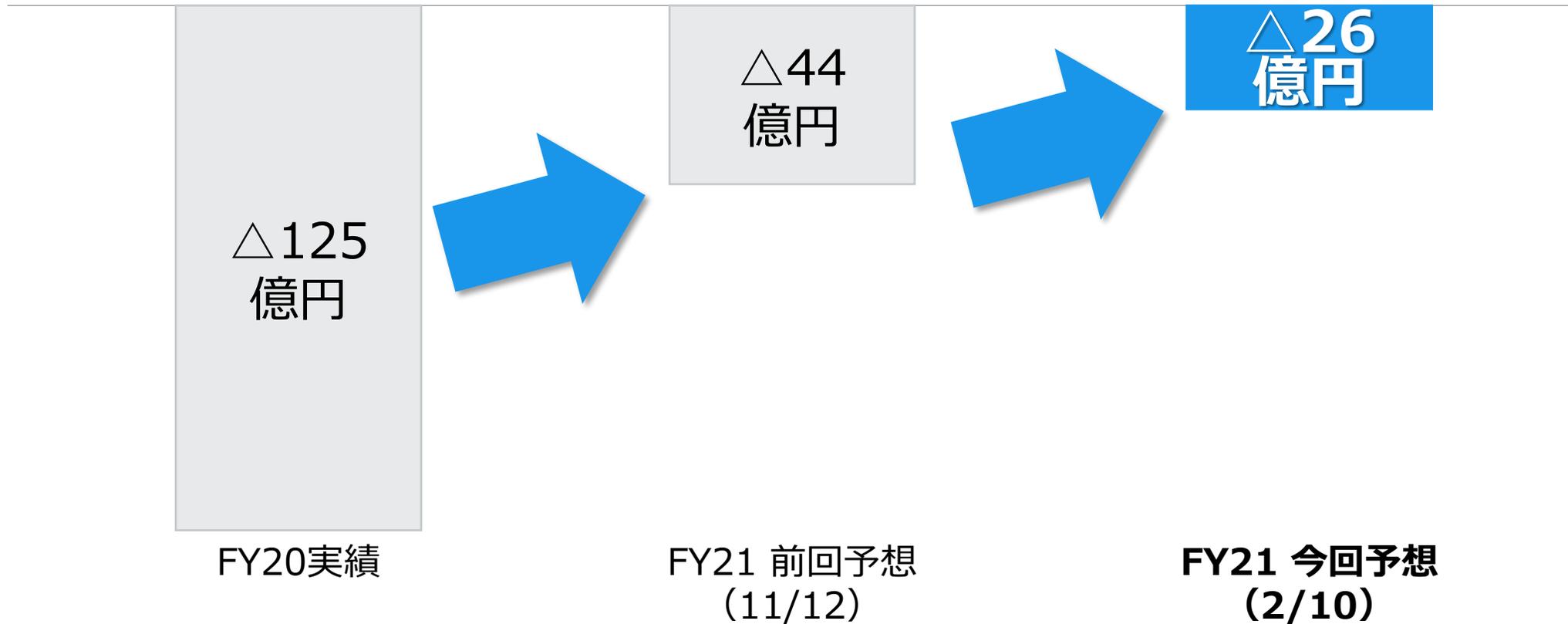
3Q 当期純損益は前回予想から改善し 24億円 の実績

3Q 当期純損益 **+81億円 改善** (前回予想比)



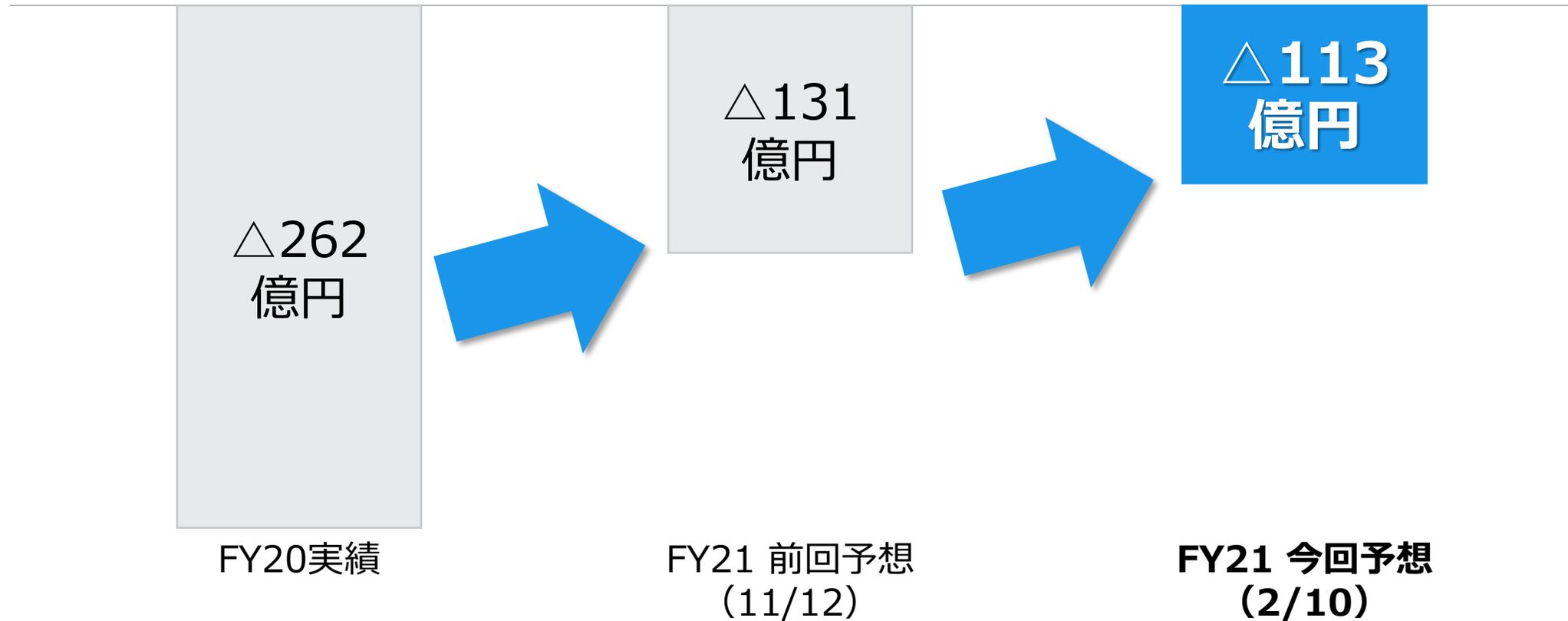
通期 EBITDAは前回予想から改善し $\Delta 26$ 億円 の今回予想

通期 EBITDA **+18**億円 改善 (前回予想比)



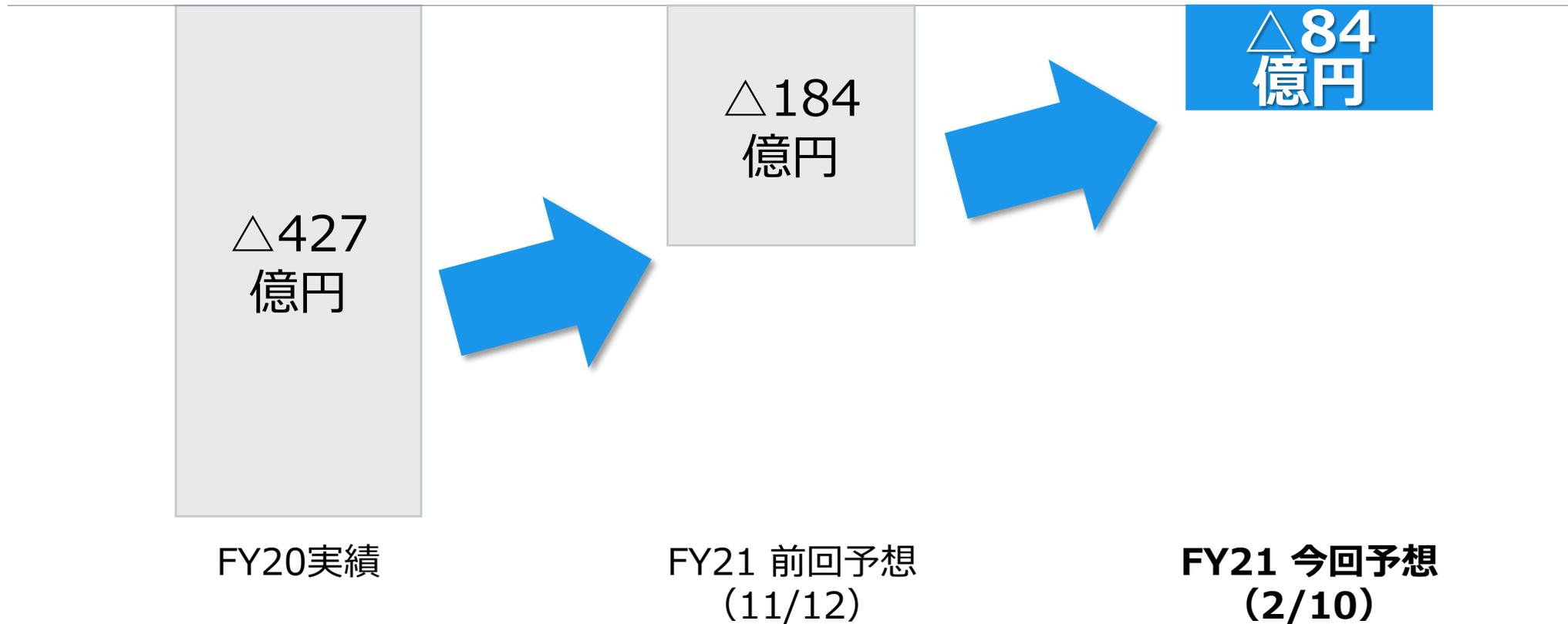
半導体逼迫影響の抑制、継続したコスト削減、部材コストの売価への転嫁等により、
通期 営業損益は前回予想から改善し $\Delta 113$ 億円の今回予想

通期 営業損益 **+18** 億円 改善 (前回予想比)



通期 当期純損益は前回予想から改善し $\Delta 84$ 億円の今回予想

通期 当期純損益 **+100** 億円 改善 (前回予想比)



戦略

KPI

事業 改革

- 既存事業の建て直し
 - ✓ 結果責任を持つ組織・経営体制
 - ✓ 営業・マーケティングの強化
- 収益力の徹底強化
 - ✓ 不採算事業整理による競争力の強化
 - ✓ 多様な技術で、製品の優位性拡大

- 2021年度第4四半期のEBITDA黒字転換

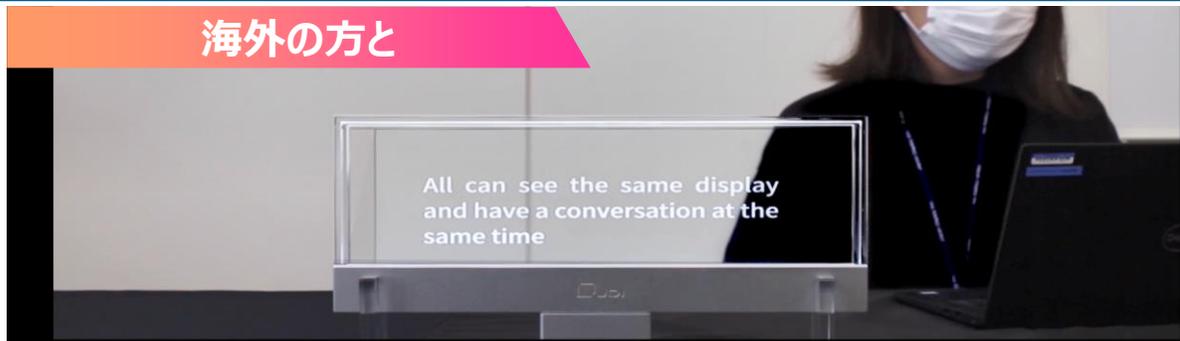
事業 転換

- 新ビジネスモデル/最終製品の事業化
 - ✓ 事業転換への挑戦
 - ✓ R&Dの事業化・収益化
- 高付加価値技術の事業化

- 独自のキーデバイスを軸に、サービス、ソリューション、プラットフォーム等を2021年中に複数事業化

当社の高い技術力で 84%以上 の透明度を達成し、ガラスのような透明感を実現
双方向で画像を認識し、様々な場面のコミュニケーションツールとして新たな価値を創出

海外の方と



窓口・受付、高齢者向け

特徴

- ◆ 相手の表情を見ながら、双方向コミュニケーションが取れる
- ◆ 翻訳によるテキスト表示を、双方で同時に確認
- ◆ 不使用時の解放感、背景やモノと情報を重ねて視認可能

手持ちタイプで



ビジネス展開

- ◆ 様々な窓口・受付でのコミュニケーション改善
- ◆ ろう者・難聴者・高齢者の方々との円滑なコミュニケーションを展開

画像出典: 当社HP、Makuake殿Projectサイト <https://www.makuake.com/project/j-display/>、
日本未来科学館殿サイト <https://www.miraikan.jst.go.jp/events/202106051969.html>

年齢・言語を問わず、様々な人が利用する場所・機関を中心に利用 グローバル展開により、更なる事業拡大を目指す

様々な窓口・受付の想定される場所

- ◆ 金融関係：銀行・郵便局
- ◆ 医療関係：診療所・病院・薬局
- ◆ 商業施設：スーパー・コンビニ
- ◆ 交通施設：駅・空港
- ◆ その他：自治体・老人ホーム・博物館・美術館・水族館

想定される用途

利用シーン	用途
受付	音声翻訳・文字起こし など
商業施設	インフォメーション・広告展示・支払い情報 など
交通施設	チケットカウンターでの空席確認・支払い情報 など
その他	文字起こし・展示品情報表示 など

将来像

- ◆ インテリアとして、クリエイティブな空間の演出
- ◆ 小売店等のショーケースや展示棚で、商品情報を表示

想定市場規模



出典：各種店舗数情報を参考にジャパンディスプレイ推定



Japan Display Inc.

2021年度 第3四半期 業績報告
2021年度 業績予想

半導体不足の影響が続くも、製品ミックス改善、コスト削減効果、値上げにより損益が改善

(億円)	FY20 3Q (会計)	FY21 3Q (会計)	YoY	FY20 3Q (累計)	FY21 3Q (累計)	YoY
売上高	727	717	-11	2,725	2,095	-630
EBITDA	△ 57	△ 9	+47	△ 78	△ 37	+41
営業利益	△ 87	△ 31	+57	△ 186	△ 101	+85
経常利益	△ 108	△ 25	+83	△ 260	△ 101	+159
四半期純利益	134	24	-109	△ 229	△ 63	+166

◆半導体不足影響除く

売上高	727	757	+30	2,725	2,303	-422
EBITDA	△ 57	9	+66	△ 78	45	+123
営業利益	△ 87	△ 12	+75	△ 186	△ 19	+167

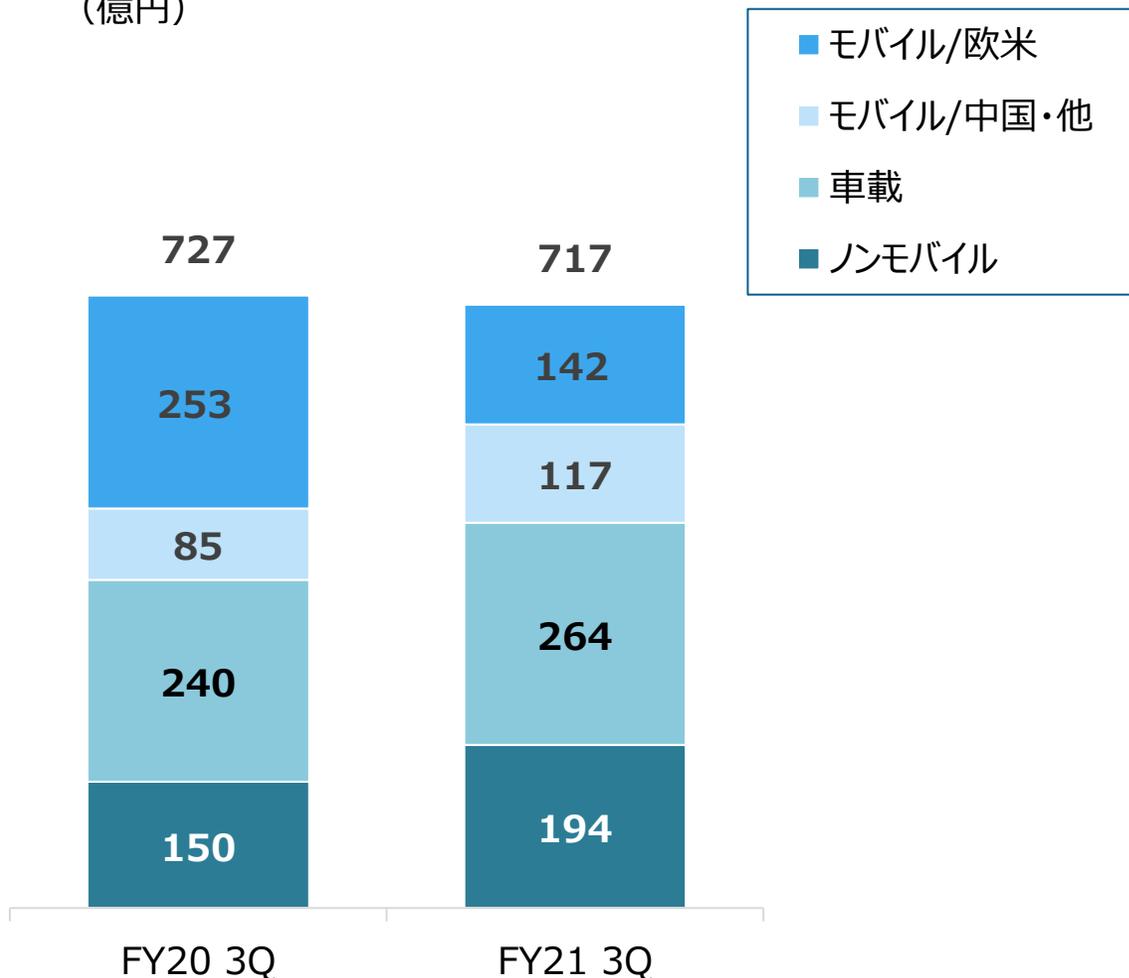
- EBITDAは、営業利益（損失）に営業費用である減価償却費及びのれん償却額を加算して算出しています。
- 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を表しています。

■ 3Q会計期間

- 売上は前年同期と同水準。車載、ノンモバイルが好調で、欧米向けスマートフォン用の需要減による前年同期比割れは3Qで終息
- 製品ミックス改善、コスト削減効果、値上げ等により、経常利益までの損失は縮小。四半期純利益は前年同期の工場売却益剥落、当3QのKOE株式売却益54億円を反映
- 11/12予想比：部材コスト増の販売価格への転嫁、計画以上のコスト削減により、営業損益は9億円良化。KOE株式売却益もあり、四半期純損失は予想比81億円良化

分野別四半期売上高

(億円)



3Q分野別売上高の状況 (3か月)

■ モバイル分野 (YoY -23%、QoQ -19%)

- 欧米向けは液晶需要減が続き減収。中国向けは値上げの奏功もあり増収
- 11/12予想比：中国向けは若干予想を下回るも、欧米向けでカバーし、9億円良化

■ 車載分野 (YoY +10%、QoQ +11%)

- 半導体等の部材不足の影響が続くも、旺盛な需要により増収
- 11/12予想比：顧客部材調達不足の影響が想定を上回り、46億円悪化

■ ノンモバイル分野 (YoY +29%、QoQ +21%)

- ウェアラブル用OLED、VR用液晶の牽引により増収
- 11/12予想比：部材不足影響を最小限に留め、24億円良化

FY21 3Q 営業利益 増減要因

YoY

(億円)

FY20 3Q

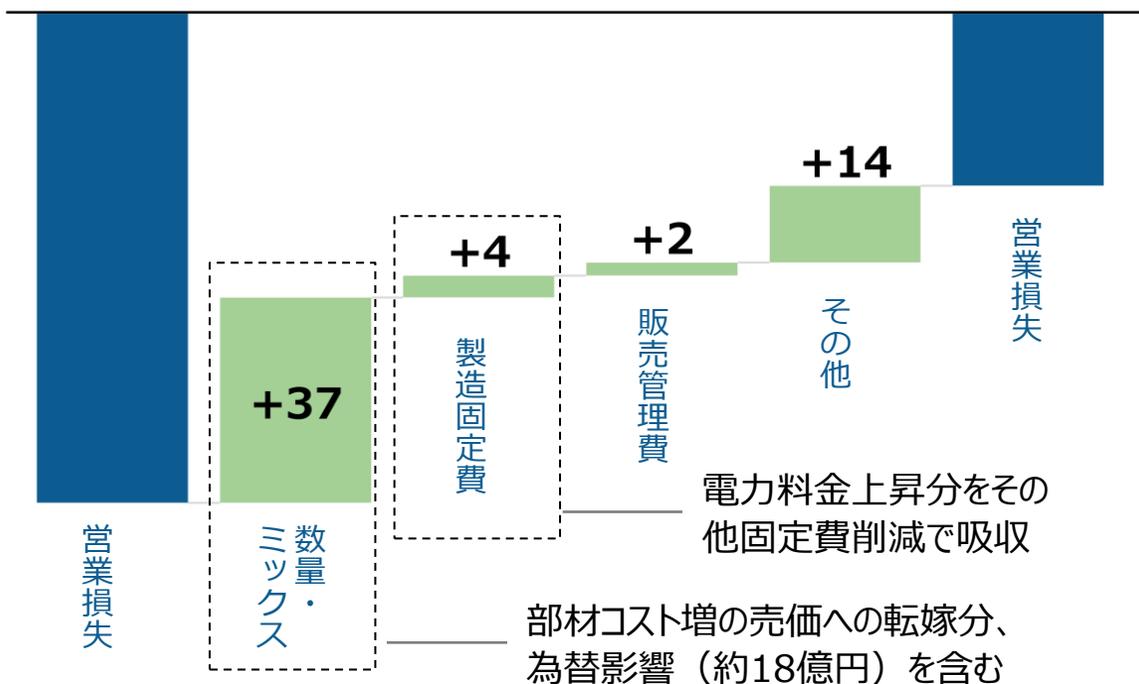
売上高: 727

△87

FY21 3Q

売上高: 717

△31



QoQ

(億円)

FY21 2Q

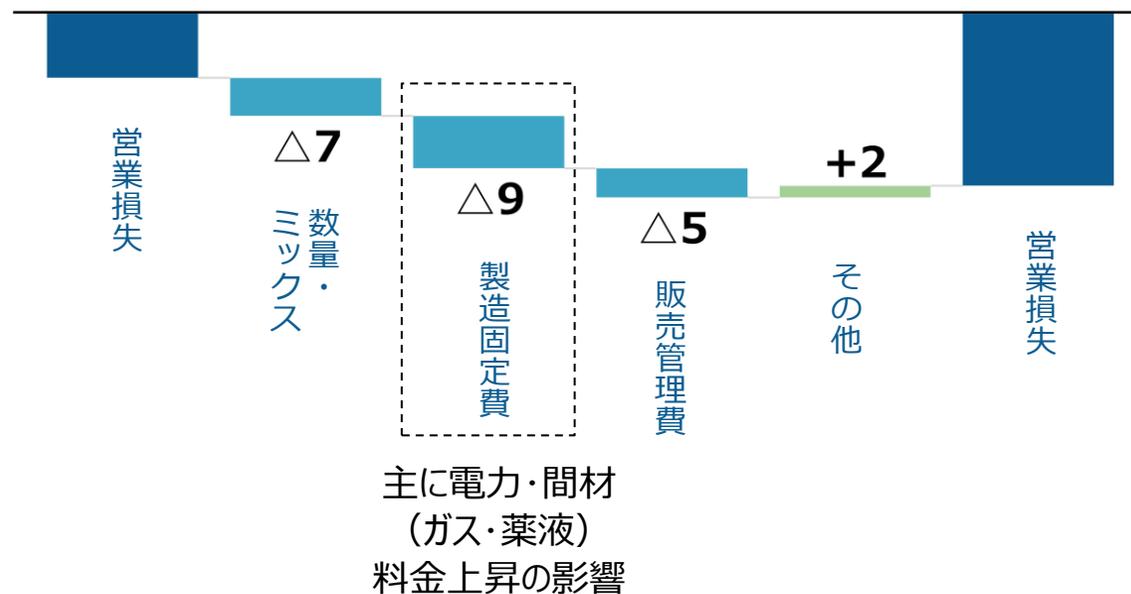
売上高: 719

△12

FY21 3Q

売上高: 717

△31



部材不足による生産への影響等により通期売上高予想を下方修正

一方、3Q 予想比改善、部材コスト増の販売価格への転嫁等により損益は上方修正、4Q EBITDA黒字化目標を維持

(億円)	FY19	FY20	FY21	FY21					<ご参考>	
	通期 実績	通期 実績	通期 (11/12予想)	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 今回予想	通期 今回予想	FY21通期 ※半導体不足影響除く 試算値 (影響額)	
売上高	5,040	3,417	2,970	660	719	717	815	2,910	3,215	(305)
モバイル/欧米	-	1,626	764	214	220	142	206	782	-	-
モバイル/中国・他	-	349	397	87	100	116	109	412	-	-
車載	-	881	1,128	209	239	264	307	1,019	-	-
ノンモバイル	-	562	680	150	160	194	193	697	-	-
EBITDA	△ 195	△ 125	△ 44	△ 37	10	△ 9	11	△ 26	77	(103)
営業利益	△ 385	△ 262	△ 131	△ 59	△ 12	△ 31	△ 12	△ 113	△ 10	(103)
経常利益	△ 579	△ 327	△ 145	△ 64	△ 12	△ 25	△ 17	△ 118	△ 15	(103)
当期純利益	△ 1,014	△ 427	△ 184	△ 70	△ 18	24	△ 21	△ 84	19	(103)

為替前提 1米ドル = 114円



Japan Display Inc.

Appendix

SDGs実現に向けた社会課題への積極的な取組みにより、持続可能な社会の実現に貢献

「国連グローバル・コンパクト」

- ◆ 「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」に参加
- ◆ 併せて、UNGC に署名している日本企業・団体に構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）」に加入

国連グローバル・コンパクト 10原則

人権	原則1： 人権擁護の支持と尊重 原則2： 人権侵害への非加担
労働	原則3： 結社の自由と団体交渉権の承認 原則4： 強制労働の排除 原則5： 児童労働の実効的な廃止 原則6： 雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7： 環境問題の予防的アプローチ 原則8： 環境に対する責任のイニシアティブ 原則9： 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10： 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

<参考>

UNGC（英語）：<https://www.unglobalcompact.org/>

GCNJ（日本語）：<http://ungcjin.org/>

再生可能エネルギー

- ◆ Apple社の再生可能エネルギー100%に参加



Supplier Clean Energy Commitments

On October 27, 2021, Apple announced it had doubled supplier commitments to making Apple products with 100 percent renewable energy—with more than 100 new supplier commitments in the last year and a half, including every supplier working on final assembly of Apple’s newest products. The following lists all suppliers committed to 100 percent renewable energy for Apple production.

- | | | |
|---|---------------------------------|--|
| • II-VI Incorporated | • Compeq | • I-PEX Inc.* |
| • 3M | • Concraft* | • Infineon Technologies AG* |
| • Advanced International Multitech | • Cooler Master Co., Ltd. | • Intramedia* |
| • AKM Meadville Electronics | • Corning Incorporated | • ITM Semiconductor Co., Ltd. |
| • Alpha and Omega Semiconductor Limited | • COSMO | • J. Pond Industry (Dongguan) Co., Ltd.* |
| • Alps Alpine* | • Cowell Optic Electronics Ltd. | • Jabil |
| • Amagasaki Seikan* | • CymMetrik | • Jarlytec* |
| • Amphenol | • Daesang | • JDI* |
| • Arkema | • Derkwo* | • Jiangsu Gian* |
| • ASE Technology Holding | • Dexerials Corporation | • Jiangsu Kangni Holding |

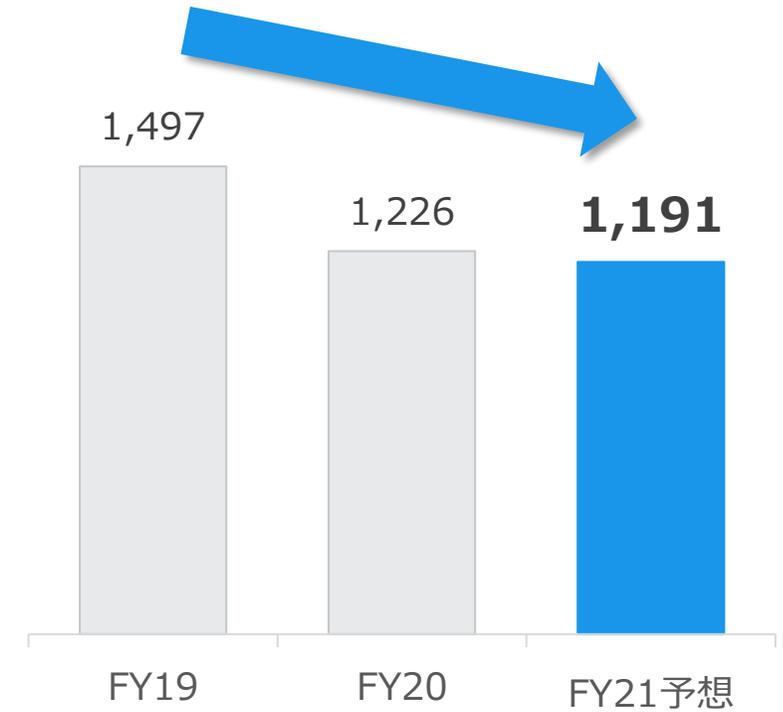
<参考> Supplier Clean Energy Commitments :

https://www.apple.com/environment/Apple_Supplier_Clean_Energy_Commitments_October-2021.pdf

徹底的なコスト削減により、黒字体質に向けて体幹を強化

固定費 FY21年間 約 **20%** 削減 (FY19比)

- **製造**：生産性改善・歩留り改善によるスループット最大化
- **全社**：販管費・間接経費の最小化、共通業務の効率化

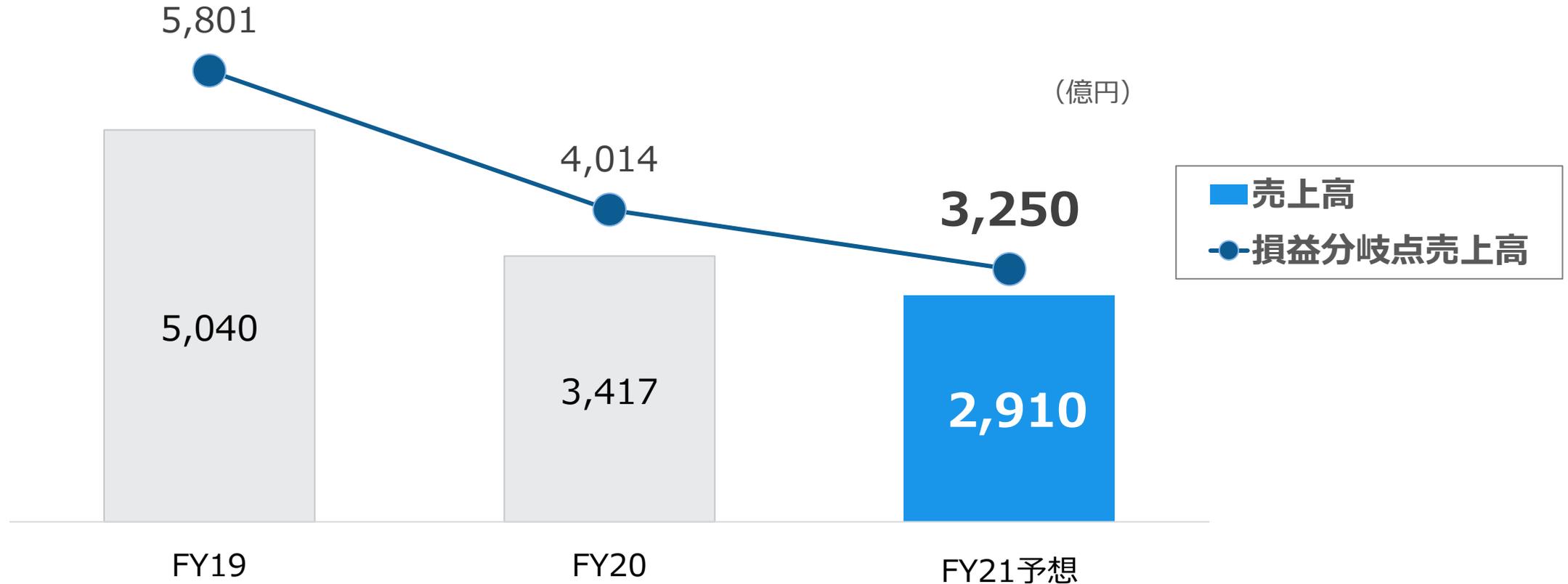


固定費の改善 [億円]

※固定費には、工場の動力費・保守費、物流費等の準変動費および準固定費を含む

付加価値・利益率の向上とコスト削減により、損益分岐点を大幅低減

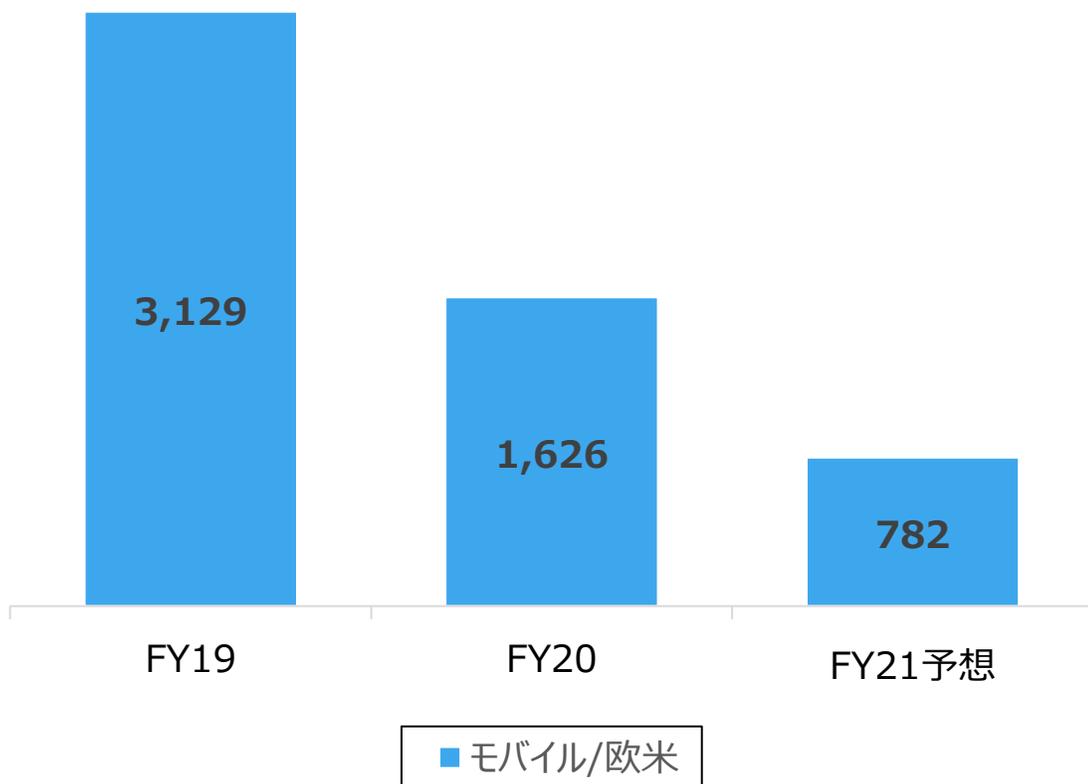
損益分岐点 約 2,500億円 引き下げ



モバイル/欧米の急減を吸収しつつ、ポートフォリオを分散化させ、より安定性の高い成長を実現

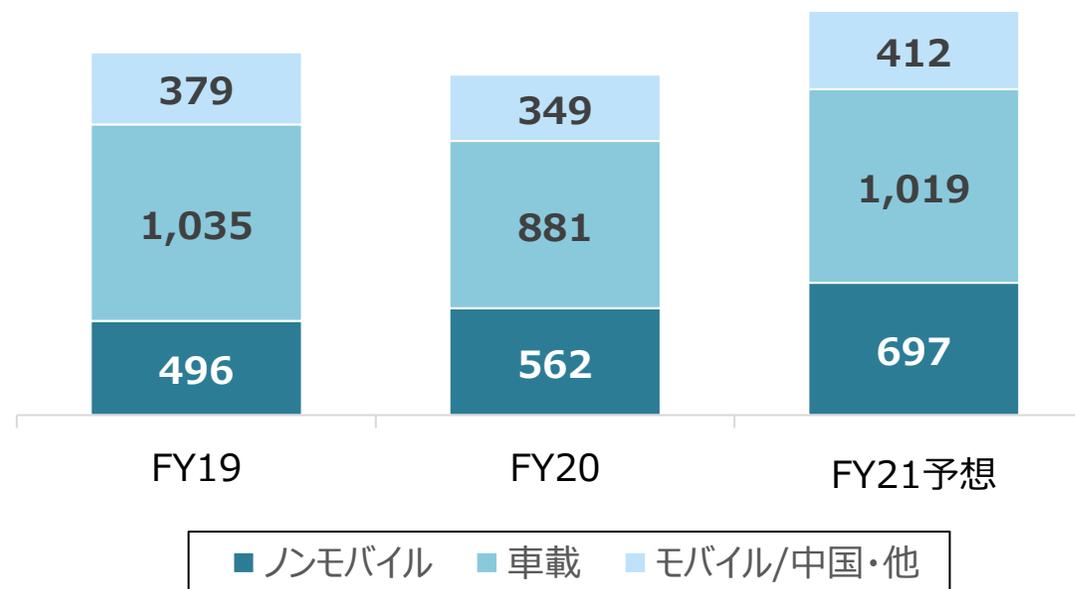
分野別通期売上高（モバイル/欧米）

(億円)



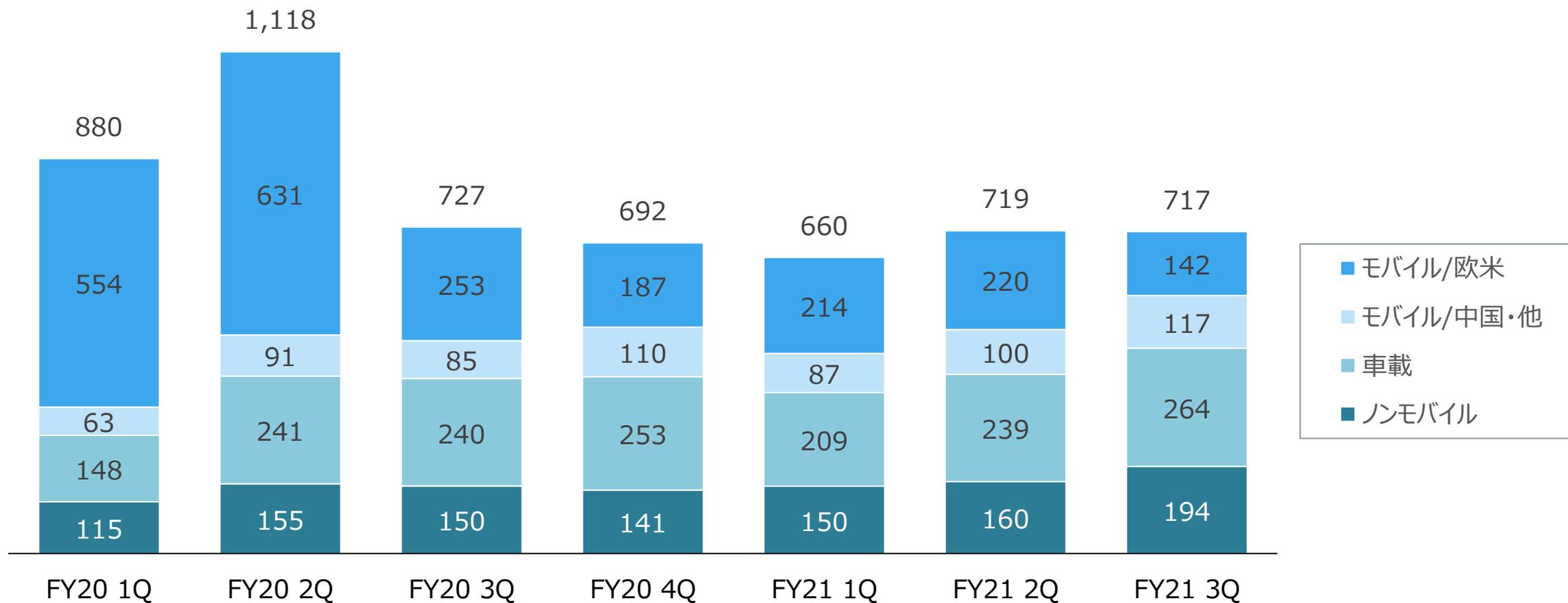
分野別通期売上高（モバイル/欧米除く）

(億円)



分野別四半期売上高推移

(億円)



連結貸借対照表

(億円)	FY20 3Q	FY20 期末	FY21 3Q	前年同期比	前期末比
現金及び預金	542	557	578	+36	+21
売掛金	279	312	323	+44	+11
未収入金	192	153	183	-9	+30
在庫	407	397	510	+103	+112
その他流動資産	22	43	50	+28	+7
流動資産合計	1,442	1,463	1,644	+202	+181
固定資産合計	925	787	749	-176	-38
資産合計	2,367	2,250	2,393	+26	+143
買掛金	469	374	494	+25	+120
有利子負債	972	971	749	-222	-222
前受金	23	19	53	+30	+34
その他負債	533	467	492	-41	+25
負債合計	1,998	1,832	1,789	-209	-43
純資産合計	369	418	604	+235	+185
自己資本比率	14.5%	17.6%	25.2%	+10.7ポイント	+7.6ポイント

(注) 貸借対照表の「現金及び預金」の額と、キャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異は、「預け金」です。

(億円)	FY20 3Q会計	FY21 2Q会計	FY21 3Q会計	前年 同期比	前四半 期比	20年度 3Q累計	21年度 3Q累計	前年 同期比
売上高	727	719	717	-11	-2	2,725	2,095	-630
EBITDA	△ 57	10	△ 9	+47	-19	△ 78	△ 37	+41
営業利益	△ 87	△ 12	△ 31	+57	-19	△ 186	△ 101	+85
営業外損益 (△は損失)	△ 20	△ 1	6	+26	+6	△ 73	0	+74
経常利益	△ 108	△ 12	△ 25	+83	-13	△ 260	△ 101	+159
特別損益 (△は損失)	242	△ 1	53	-189	+55	39	49	+10
税引前当期純利益	134	△ 13	28	-106	+42	△ 220	△ 52	+169
当期純利益	134	△ 18	24	-109	+42	△ 229	△ 63	+166
平均為替レート (円/米ドル)	104.5	110.1	113.7			106.1	111.1	
期末為替レート (円/米ドル)	103.5	111.9	115.0			103.5	115.0	

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)	FY20 3Q	FY21 2Q	FY21 3Q	FY20 3Q累計	FY21 3Q累計	前年 同期比
税引前四半期純利益	134	△ 13	28	△ 220	△ 52	+169
減価償却費	30	21	22	118	65	-53
運転資金	91	△ 32	△ 5	268	△ 82	-350
前受金	△ 22	16	△ 15	△ 98	31	+129
事業構造改善費用	3	0	0	105	0	-105
減損損失	4	1	4	109	9	-100
固定資産売却益	△ 191	0	△ 4	△ 191	△ 4	+187
関係会社株式売却益	0	0	△ 54	0	△ 54	-54
その他	28	25	30	△ 150	24	+174
営業キャッシュ・フロー	78	19	6	△ 58	△ 62	-4
固定資産の取得による支出	△ 29	△ 21	△ 4	△ 61	△ 49	+12
子会社株式売却による収入	0	0	76	0	76	+0
その他	△ 3	0	5	△ 17	7	+24
投資キャッシュ・フロー	△ 32	△ 21	77	△ 78	34	+112
財務キャッシュ・フロー	△ 1	47	△ 5	12	39	+27
期末現預金残高	539	490	574	539	574	+36
フリー・キャッシュ・フロー	49	△ 2	2	△ 118	△ 111	+8

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。



唯一無二の技術

唯一無二の顧客価値

唯一無二のPersonalTech企業



THANK YOU

将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。